



「カブスカウト」：小学3年生、4年生、5年生の部門です!

ボーイスカウトでは年齢に応じて5つの部門に分かれて活動を行っており、その1つ「カブスカウト」は小学3年、4年、5年生で構成されています。また、ボーイスカウト教育の特徴は「青少年の自発活動」です。青少年が人生に役立つ技能を習得し、社会に奉仕でき、幸福な人生を歩めるようになるための運動です。



～ボーイスカウト教育法 “TEAM SYSTEM” チームシステム～

ボーイスカウトの教育法は8つの要素で構成されています。そのうちの1つ「チームシステム」では少人数のグループで活動を行います。カブスカウトでは「組」単位で活動し、組では組長や次長が中心となって活動を行っていくなかでリーダーシップやフォロワーシップを育てていきます。

また、それぞれの組では小学3年生、4年生、5年生といった学年の異なるメンバーで構成され、同じこと(例えば食事作り)に取り組む場合でも学年によって役割が異なり、自分の役割を理解し、**自分ができることは責任をもって取り組む**、といった体験を通して組(社会)の中での自分自身の存在が重要であることを学びます。

このような組での活動を繰り返していくことで**「人の役に立つ」という体験から得る経験が自己肯定感(自己有用感)を高めていくことに繋がります**。少人数の組での活動はメンバー同士がお互いを観察し合い、相手の長所や短所を理解しやすくなります。**ボーイスカウトの教育法では他の習い事やスポーツチーム、アウトドアプログラムとは大きく異なった教育法を用いて活動を行っています**。

～自己肯定感が高く、自律的行動習慣や探求力を身につけるには?～

令和元年度の国立青少年教育振興機構の意識調査では「**自然体験や生活体験、文化芸術体験が豊富な子供やお手伝いを多く行っている子どもほど自己肯定感が高く、自律的行動習慣や探求力が身につけているという傾向がある**」という結果でした。

また、就学前から子どもの外遊びを奨励したと回答した保護者の子どもほど探求心が高い傾向がみられました。

～社会性の基礎となるもの～

人と関わりたいと思う気持ちは自らの体験によってのみ獲得されるものと言われております。他の子どもたちと一緒に遊びながら「人との関り」を学び、「社会性の基礎」を築いていきます。

【2022年度 カブ隊の活動予定】 1泊キャンプ、沖縄遠征(3年に1度)、ハイキング、大阪市立科学館、スケート、スキー、野外料理、クラフト、芋植え/芋ほり、クリスマス会などを実施。

上記以外では生駒第10団のキャンプ場での自然の中での活動や奈良県連盟や地区のプログラムに参加。

進歩制度

修得課目 / 選択科目

小グループ活動(組)

異年齢の集団

リーダーシップ/役割分担

野外活動

自然から学ぶ

行うことによって学ぶ

